

コード No.20-NPF-003

提出日：令和3年5月13日

2020年度「子ども被災者支援基金保養団体支援事業」報告書

一般社団法人子ども被災者支援基金
代表理事 鈴木 理恵

1. プログラムの目的

当基金では、福島をはじめとする放射能被害に苦しむ家庭、子ども達が必要とする保養活動を行う団体（以下保養団体と言います）に対し、資金を援助する形で保養団体を支援する活動をスタートさせました。過去5年間の活動において、保養団体が抱える慢性的な資金不足や人材不足に加え、プログラムの内容についての評価、危機管理の程度、スタッフに対する教育など、自ら作るプログラムの内容の妥当性やレベル感について悩みながら手探りで活動を行っている団体が多い事が分かりました。

しかし、一方で活動そのものに手がかかる、お金がかかることを理由に、自らの活動内容をふり返らず、ただ勢いに任せた活動を行っている団体や、基金の支援に慣れてきた団体も散見されるようになってきました。加えて、昨年度は活動を停止する団体はありませんでしたが、この状況下で続ける意義はどこにあるのか良く見えなくなっている団体も出てきました。

そのため、助成金を通して活動内容の評価や妥当性をチェックしたり、モニタリング等で各団体と密にコミュニケーションを取る事で、様々な面で活動や団体の改善に結びつけ、より良いプログラムの提供が可能となるよう考えております。

具体的には、資金そのものの援助、資金援助を通じた事務作業の指導、子どもを扱う事に対する指導、研修会の開催、保養活動のモニタリングと評価のフィードバック、助成事業に参加した方へのアンケート調査などの活動を展開し、この活動によって保養団体の成長を促すことで、福島をはじめとする保養に参加したい子ども達とその家族が安心して保養に参加出来る環境や仕組みを整えるために、保養団体を通じた間接的支援を行います。特に今年度は研修事業を強化し、人材育成を促進すると共に、コンプライアンス推進事業を立ち上げ、更なる公共性の高い保養プログラムの提供を促進します。

2. 主な活動内容・スケジュール

① パートナー事業

保養プログラムの質の向上を目的に、各保養団体のプログラムの特徴や長所短所を把握すると共に、課題の抽出と解決を図るため、その意思を持つ団体が当団体の支援を優先的に受けられるように、特定の強い関係性を保つようパートナーシップ制度を継続した。

2020年度パートナー団体募集時期

募集期間：2020年3月9日から2020年4月15日まで
 (前年度の事業期間であるが、事業の計画上前年度中に説明会を実施)
 説明会：新型コロナウイルスの影響を考慮し、説明会は実施しなかった。

パートナー登録団体
 2019年度から更新 15団体
 2020年度新規登録 0団体
 計15団体

従来であればモニタリングやその結果のフィードバックなど、パートナー団体とコミュニケーションを密にして交流を深める活動が主となるが、新型コロナウイルスの影響で訪問が行えず、事業らしい事業ができなかった。また、パートナー団体の募集において、20年度の開催を早々に中止した団体5団体が退会した。「助成金だけのつながりにしない」という方針で活動してきたが、お金の切れ目が縁の切れ目という団体がいたこと自体、重く受け止めふり返る必要がある。

② 助成金事業

今年度は保養プログラム開催にあたり、ほとんどの費用を負担できるプログラム助成タイプで、1団体あたり20万まで、6団体120万円の予算で募集を行った。

しかし、募集時点ではほとんどの団体が開催直前まで開催の可否判断を待つとのことだったが、募集を開始してから中止判断をした団体が増え、最終的には14団体が開催を中止、応募は1団体のみとなった。

助成金応募団体
 ・ライフケア 20万円

採択結果
 ・応募辞退
 (助成金を使う理由や効果について、もう少し詳しい説明を求めたところ、これ以上は出来ないとの事で、応募を辞退した)

助成実績 0件 0円

上記の結果を受け、中止判断をする団体が多いならば、感染者の少ない山形県内で当団体が直接保養事業を開催すべく内容を変更した。

「保養と交流のつどい in やまがた」(助成金代替事業)

2020年8月9日～10日
 山形県寒河江市内 グリバーさがえ(漕艇場)
 チェリーパークホテル

募集人数45名程度
 参加費 大人2,500円 小中学生1,500円 幼児500円
 保養の開催を中止したパートナー団体からスタッフを募集
 パートナー団体の顔つなぎの場づくりも兼ねた

最終的に13組57名の応募
スタッフはポンテ3名、練馬2名の応募

しかし開催直前の7月29日に梅雨前線の影響で記録的な大雨が降り、開催地域を流れる最上川が氾濫、水上スポーツを行う予定だったグリバーさがえが壊滅的な被害にあったため、やむを得ず中止とした。(感染対策を行いつつながら活動出来る場所が見つけれなかった)

③ 人材育成事業

研修会は新型コロナの影響で開催するに至らなかった。

代替措置として、東日本大震災から10年を迎えるにあたり、保養やこれまでの活動について振り返る場を設けることとした。

「3.11追悼 保養を振り返る緊急ミーティング」

～保養は何をもたらし、何をもたらせなかったのか～

開催日：3月27日18：30～ ZOOMによるオンライン開催

参加者 パートナー団体 ウェルカムかさおか1名(岡山)

親子わくわくピクニック1名(静岡)

吹夢キャンプ1名(大阪)

ふくしまっこチャレンジスクール2名(石川)

ふくふくっこ@知多半島1名(愛知)

ゲスト I I HOE 川北秀人様

NPF 高谷忠嗣様

司会進行 東田秀美(当団体監事)

内容 パネルディスカッション

基金：活動のきっかけや経緯、思い

パートナー団体：この10年の成果や課題など

終了後フリートークの時間を設けたところ

・基金の提出書類が大変だ

・PCR検査に懐疑的

という意見がでた。

3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）



3. 11 追悼 保養をふり返る緊急ミーティング 事務局側の映像 3月27日

4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

今年度は思う様な活動ができず、悔しい思いをしたが、3月に実施したふり返りのオンラインミーティングでは参加者が少ないながらも貴重な意見を聞くことが出来た。また、保養に対する想いを新たに出来たと思う。また、パートナー団体の保養中止を受け、間接的な支援を行ってきた我々が直接開催に踏み切れたのも、これまでの経験や実績を重ねての事だと思う。結果として災害によって中止にはなったが、また新たな活動の視点が広がったと思う。

5. 今後の課題

- ・コロナ禍における保養活動のあり方をどう考えるか。またそれをパートナー団体にどのように伝えるのか。
- ・新型コロナの感染対策の具体的な方法やガイドラインの更なる充実。

以上